

これまでとこれから

2021年度も新型コロナウイルスの影響が多方面にありました。そんな中、新しいパートナーからお声掛けいただき、新たな取り組みが始まりました。また、ジャパンGEMSセンターが設立20周年を迎え、GEMSを支えて下さったゲストを招いての周年イベントを行いました。

「100年後に生きる子ども達に感謝される森づくり」

メットライフ生命創立50周年記念事業の一環として、「100年後に生きる子ども達に感謝される森づくり」を



「メットライフ財団の森」除幕式

開始しました。JEEFネットワークのひとつであるNPO法人しんりん(※)と連携し、宮城県大崎市の「エコラの森」での活動を中心に、「環境保全」「ボランティア」「環境教育」からなるプログラムを実施していきま

す。乱伐され荒廃した森林からの再生を目指し、メットライフ財団の支援により植樹するエリアを「メットライフ財団の森」と命名。社員ボランティアの皆さまと、植林活動や、エコラの森から出た建築端材をアップサイクルした箸を製作して児童養護施設等に寄贈する「つなぐ！お箸プロジェクト」などに取り組みます。

健全な森林の育成を通して、気候変動や生物多様性の問題にアプローチするとともに、人と人、人と自然、人と社会をつなぐというJEEFらしいパートナーシップ事業を展開していきます。

狩猟・ジビエ普及推進事業

2021年11月、山梨県・キープ

協会にて小学生の親子を対象とした1泊2日の「狩猟&ジビエモニターツアー」を開催しました。募集開始してすぐに定員の倍以上の応募があり、参加者の並々ならぬ関心の高さがうかがえました。

大日本猟友会と連携して環境教育的視点から狩猟・ジビエの普及推進を目指す本事業。日本全国で大きな問題となっている野生鳥獣による農作物被害に対し、日本唯一の全国的狩猟団体である大日本猟友会と、環境教育のノウハウ、ネットワークを持つJEEFが協力して、鳥獣害の課題に取り組みます。

鳥獣害の問題には、里山が荒廃し食べ物求めて人里に降りてくる動物の増大と、それによる農作物被害の増大、国内の狩猟免許保有者の減少、猟師の高齢化など、様々な課題が関わってきます。そこで、狩猟・ジビエの普及の方向性を話し合うため、有識者による検討委員会を立ち上げ、今度は千葉・埼玉などでもモニターツアーを行ないながら、全国の



「狩猟&ジビエモニターツアー」わな猟の実演の様子



「狩猟&ジビエモニターツアー」
夜間の生き物の様子を録画するためにセンサーカメラをとりつける



ローレンスホール科学教育研究所 Suzanna Loper 氏の講演会

自然学校向けの狩猟・ジビエプログラム手引書を作成する予定です。

20周年 ジャパンGEMSセンター

2022年3月に記念講演会をオンラインにて開催。これまで長くジャパンGEMSセンターを支えてくださったローレンスホール科学教育研究所(LHS)のスザンナ・ローパー氏やトレーシー・シールズ氏、ジャパンGEMSセンター運営委員の本田恵

子教授(早稲田大学)、そしてアドバイザーの美馬のゆり教授(はこだて未来大学)から、GEMSのこれまでの発展プロセスと、これからの社会の中での役割についてお話をいただきました。

特にカリフォルニアからの中継となったスージー、トレーシー両氏のセッションでは、参加者から普段はなかなか聞くことができない本場LHS流のワクワクのつくり方やプログラムの組み方についての質問があり、両氏の

さすがの返しに参加者から感嘆の声があがっていました。情報量たっぷりの4セッションで、その日のうちには消化しきれないような濃密さでしたが、参加者限定で録画を公開し、それぞれのペースで学びほぐしをしていけるように工夫。21年目も新しいチャレンジを続けていくエネルギーをいただきました。

2022年度に向けて

2013年から2019年まで7期開催し、その後コロナ禍で2年休校していた「東京シニア自然大学」を、「東京ネイチャーアカデミー2022(略称TNA)」に名称を改め、新カリキュラムで9月から再スタートします。

またベネッセこども基金との協働で、院内学級向けの動画作成も開始します。

新たな取り組みにどうぞご期待ください。

文:吹留純子(JEEF職員)